

Validation of the relationship consciousness of Japanese Patients with type 2 diabetes scale

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2020-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00056965

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 31 年 2 月 18 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1629022007

氏名 小池 美貴

論文審査員

主査（職名） 大桑麻由美（教授） 

副査（職名） 津田 朗子（教授） 

副査（職名） 稲垣美智子（教授） 

論文題名 Validation of the relationship consciousness of Japanese Patients

with type 2 diabetes scale (2型糖尿病患者と同病者の繋がり尺度の妥当性の検討)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

2型糖尿病の重症化予防として患者が自己管理を行うための支援が必要である。同病者同士で行われるピアサポートは有用で「同病者同士の繋がり」を活用する必要がある。本研究の目的は2型糖尿病患者の同病者との繋がりに対する意識評価を行う尺度の開発を行うことであった。尺度開発の構成概念としてHBM（ヘルス・ビリーフ・モデル）を用い、尺度原案は、HBMの4つの概念から構想、先行研究（博士前期課程）を基に作成し、項目精選と表面妥当性の検証を経て最終的に57項目となった。並存妥当性の検討のために「互恵意識尺度10項目」の回答を依頼することとした。

対象者は1県内9施設の2型糖尿病患者とし、調査票回収数377、有効回答数289を対象とした。尺度開発の手順に基づき、項目分析では、天井効果・フロア効果の検討を行い、G-P分析、I-T相関を確認した。構成概念妥当性は探索的因子分析、併存妥当性の検討（相関係数）、内容的妥当性（CVIの算出）を行った。信頼性の検討は尺度全体及び下位尺度のCronbach's α 係数を算出した。結果、6因子36項目（第1因子11項目「繋がりの有益性の意識」、第2因子9項目「繋がりの障害の意識」、第3因子7項目「糖尿病の重大性の意識」、第4因子3項目「他者との繋がりに対する積極的な態度」、第5因子4項目「他者との繋がりに対する消極的な態度」、第6因子2項目「療養行動に対する自己管理行動の意識」）となつた。「互恵意識尺度との相関係数は0.42、CVIは0.83-1.0、全項目のCronbach's α 係数は0.72-0.91であった。

【審査結果の要旨】

医療者が2型糖尿病患者の同病者の繋がりに対する意識を把握して関わることは、患者の意識に適した繋がりを進めることを可能とする。「他者との繋がりに対する積極的な態度」「他者との繋がりに対する消極的な態度」は特徴的な因子であり、患者の自尊感情や、対人関係の自信を把握できる。公開審査では、開発過程のプロセス、今後の糖尿病の臨床における尺度の有用性に対する質疑応答に十分に応答していた。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。